

RFP策定サービスは、システム調達時の、開発ベンダへの「RFP(Request For Proposal: 提案依頼書)」を作成するサービスです。自社システムを外部に調達する場合、提案依頼内容の検討は発注者(IT部門)の責任です。開発ベンダ誰もが、錯誤なく要求仕様に適合した提案書を作成できる、高品質なRFPをスピーディに作成できるようをご支援いたします。

システム調達の実情

「RFP」とは、企業が情報システムやITサービスを調達する際に、調達先となるベンダにシステム提案を行うよう依頼するものです。発注者側は、必要とする要求仕様すべてを網羅した提案書を受け取って、初めて適切な評価をすることができます。しかし、現実には以下のような問題が発生しています。

発注者の悩み...

- RFPを作っていない
特定のベンダにいつも発注している。ベンダには今ある資料をそのまま渡して、口頭で要求仕様を伝えている。
- 特定ベンダへの過度依存から脱却できない
特定のベンダに発注してきたが、コストの抑止力を動かせるために、他のベンダにも提案を依頼したい。しかし、要求仕様をまとめるスキルがない。
- 望んでいる提案を受けられない
RFPを渡しているにもかかわらず、各社提案内容にこちらが必要とする要求仕様が網羅されていない。オーバースペックで高すぎる、もしくは、安いけど過小スペック...という提案ばかり。
- RFP作成に時間をかけてはいるが...
時間をかけてRFPを作成してはいるが、その割に要求仕様を満たした提案率が低い。適切に評価できないだけでなく、適切な購買ができていないかも疑問だ。

開発ベンダの悩み...

- 要求仕様がわかりにくい
提案書を作成したが、RFPの解釈に錯誤があったせいで、提案依頼元から、「こちらが望むスペック内容でない...」とのことで失注した。
- 受注できたが、見積金額を大幅に上回ってしまった
開発したシステムが要求範囲をカバーしていないというクレームを受けた。当初の想定範囲と異なるため、仕様変更を主張し追加費用を請求したが、契約時に明確にしていなかったため、無償で開発することになってしまった。
- 受注できたが、大幅な納期遅れでクレーム
業務設計フェーズでユーザからの色々な要求仕様調整に手間取り、納期が大幅に遅れてしまった。システム化の機能ばかりに目が行き、当案件のシステム化の目的を明確にしていなかった。

データ総研のアプローチ

そこでデータ総研が行うRFP策定サービスでは、次の工夫をして、RFP作成のスピードと要求仕様の品質保証に取り組んでいます。

RFPにおける要求仕様の定義粒度の標準化

RFP作成時の要求仕様の定義では、じっくり時間をかけられるとは限りません。むしろスピードが求められます。だからといって、既存の詳細資料をそっくりベンダに渡したところで、適切な提案を受けられるという保証もありません。むしろ重要なスペックが取りこぼされてしまう可能性の方が高くなります。したがって、ベンダが必要スペックを満たした適切な提案をすることができ、かつ、短時間で要求仕様の定義ができる粒度を規定しなければなりません。データ総研では、この粒度を「概算見積」を可能とするレベルに定め、RFPを作成します。

データ構造を重視した要求仕様の定義

見積上でインパクトの大きい仕様とは、「データ構造骨格(管理対象数、管理対象間の関連)」であると考えています。データ総研では、ベンダに適切な提案をしていただくために、対象業務の流れをしめすプロセス系の仕様だけでなく、データ系の仕様も事前に提供することを重視しています。また、この「データ構造骨格」は、発注者側も共有しておくことで、ベンダの提案した見積の妥当性など、適切に評価するための原資になります。

RFPの要求仕様の定義を開発工程へシームレスに連携

開発ベンダが確定し、実際のシステム設計・開発が実施される際、RFP作成時の要求仕様の定義は確実に引き継がなければなりません。データ総研では、その連携をシームレスに行えるよう、RFP作成時のドキュメントが次工程で生かされるソリューションも提供しています。



確かな方法論

私たちデータ総研は、数々のRFP策定プロジェクトをご支援しています。このサービスに関わるノウハウを、各ドキュメントの作成技法と方法論にまとめ、保有しています。これらを元に、あらゆる企業におけるRFP策定サービスを実施いたします。

『技法と方法論』

【提案依頼書策定方法論】 PLAN-RFP

システム調達時、開発ベンダーへの提案依頼書を作成するための、核となる方法論です。
手順・成果物ノウハウを適用します。

【ビジネスデータモデル作成技法】 PLAN-DB

初心者を含む技術者が、データモデルを記述するための技法です。
前提となる、対象業務のデータ構造の可視化に適用します。

【ビジネスプロセスモデル作成技法】 PLAN-PROC

初心者を含む技術者が、プロセスモデルを記述するための技法です。
前提となる、対象業務のビジネスプロセスの可視化に適用します。

サービスの提供方法

RFP策定サービスには大きく2つのサービス形態があります。

1. 請負型：データ総研コンサルタントが、御社ご担当者に確認しながら、当該システム調達のための「提案依頼書」を作成します。
2. OJT型：御社自らが、当該システム調達のための「提案依頼書」を作成する中で、作業の全体の進め方や、ドキュメントの作成の方法をOJT形式で指導します。

実際には、ご相談により、1で実施する部分、2で実施する部分の混在などさまざまなバリエーションがあります。

RFP策定サービスに関するセミナーのご紹介

「PLAN-RFP」を適用したRFP策定におけるノウハウをご紹介します。ぜひ下記セミナーにご参加ください。(受講料:¥10,000)

RFPの記述レベルを考える RFP策定ノウハウセミナー

【第1部】RFPの記述レベルをどう考えるか？

- ・RFPとは
- ・企業文化とRFP
- ・特に難しい要求仕様定義RFP
- ・概算見積可能なRFPの条件を考える
- ・データ維持管理プロセスが見積りにインパクトを与える

【第2部】PLAN-RFPのご紹介

- ・PLAN-RFPの設計コンセプト
- ・プロジェクトの体制概要
- ・工程概要
- ・PLAN-RFP適用の考え方

お問合せ先:株式会社データ総研 営業担当 TEL:03-5695-1651 / E-Mail:crm@drinet.co.jp

株式会社データ総研 代表取締役社長 黒澤 基博

1985年創立。データ設計と標準化に特化したITコンサルティングファーム。データ中心アプローチ(DOA)のパイオニアとして知られる。

PLAN-DB®、PLAN-CODE®をはじめとする設計技法や開発方法論をベースに、わが国のリーディングカンパニー250社を支援。

現在700件を超えるデータ仕様ライブラリを有する。

東京都中央区日本橋小伝馬町4-11サンコービル TEL:03-5695-1651 FAX:03-5695-1656 <http://www.drinet.co.jp>